

令和6年度 えりも高校 第1回授業評価アンケート結果分析

アンケート実施期間：6月1日～6月28日

質問項目（各教科・科目共通）

先生に関する項目	①	授業の目標・課題設定がわかりやすい。
	②	板書やプリント・PCの文字、先生の説明・指示や声量・話す速度などがわかりやすく、整理されている。
	③	授業の内容や難易度は自分に合っている。
	④	ペアワークやグループワークなど対話的活動により、自分で考えたり発表したりできるような授業である。
	⑤	どのように評価されるか説明している。
	⑥	内容や疑問点について振り返る時間があり、伝えやすい。
生徒自身に関する項目	⑦	話を聞く姿勢を取るなど、ふさわしい態度で学習している。
	⑧	授業に積極的・主体的に参加している。
	⑨	分かりやすく発表したりまとめたりすることができている。
	⑩	この授業を通して、その科目に関する考え方が深まった。
	⑪	この授業を通して、知識や技能の向上を実感している。
授業についての記述欄		授業に関して特に学びを得たと思うことを記入してください。
		授業に要望があれば記入してください。

○生徒の評価

4～1の段階で評価する。

4	そう思う。
3	どちらかというと思う。
2	どちらかというと思わない。
1	思わない。

○評価の段階

生徒の評価の平均を以下の評価とする。

3.5～	A評価
3.0～3.5	B評価
2.5～3.0	C評価
～2.5	D評価

教科（国語科）
① 評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動） ①授業の目標が分かりやすい」に関しては良好である。一方で、教科として全ての時間で「目標」提示しているが伝わっていない可能性がある。改めて、ねらいや目標を生徒に伝え、見通しを持った授業づくりに力を入れる。
②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動） 「⑩この授業を通して、知識や技能の向上を実感している」について、半数の科目でB評価であることから、高校3年間の集大成で実感できるように段階的に知識や技能の育成に努める。 また、「⑨分かりやすく発表したりまとめたりすることができる」に関しては、科目の特性を考慮し効果的な指導を模索していく。
③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動 教科内で、授業の様子を適宜交流し、授業の展開や進度を見てティームティーチングなどを取り入れていく。

教科（地歴公民科）
①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動） 「板書やプリント・PCの文字、先生の説明・指示や声量・話す速度などがわかりやすく、整理されている。」の項目では、板書など学習内容の整理の工夫を教科内で行った。 「授業に主体的に参加している」については授業の課題設定の吟味が求められる。教師の教材観を深め、科目の目標を達成できるように研鑽したい。
②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動） グループワークなどの機会の設定が課題である。目標に正対した適切な学習活動の設定について考えていきたい。 低学年ほど、授業の難易度が自身にあっていないという結果が出ている。高校の学習内容と自身の生活を結びつけるなどの工夫が求められる。
③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動 基礎基本の徹底を図り、生徒が「できる」「わかった」といった実感を与え、さらに学習への前向きな取組を促したい。

教科（数学科）
①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動） どの学年についても「どのように評価されているか説明している。」の項目と「授業に積極的・主体的に参加している。」の項目が特に高かった。家庭学習が成績に加味され、確認テストの点数にも直結するため、家庭学習の推進とモチベーションの向上につながっていると考えられる。今後も継続していきたい。
②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動） 「分かりやすく発表したりまとめたりすることができている。」の項目の評価が低かった。しかし数学科として、互いに学び合う機会を積極的に設けることを優先して指導を行っているため、「授業に積極的・主体的に参加している。」の項目は高くなっていると考えている。 また数学科では習熟度別展開を生徒の希望制としているが、特に2学年において「授業の内容や難易度は自分に合っている。」の項目は低い傾向にある。各科目の難易度が上がったことに加えて、モチベーションと知識の定着度合いの間に乖離があることが予想される。
③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動

教科（理科）
①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動） 3学年は例年同様、全般的に評価が高く、モチベーションもあると思われる。今後も進路に向けて生徒の意欲を高める授業を心掛けたい。
②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動） 1学年の対話的活動の質問項目が低くなっている。主に実験・観察の中でグループワークを取り入れ、授業改善を行っていく。
③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動 実験を行っていくことはもちろんのこと、実験を通して探究し、課題解決ができる授業を目指す。

教科（保健体育科）
①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）
<p>全学年で共通してA評価の項目は、①目標、⑤評価、⑦態度、⑧主体性であった。毎時間可能な限り、ホワイトボードや学習カードを活用して目標や成績について説明・提示していること、また「授業規律を第一」と考えて適宜指導していることが高い評価に繋がっていると考えられる。</p>
② 評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）
<p>C評価の項目はなかったが、1・2年生で④対話的活動、⑥振り返り、⑨発表が他に比べて低く出た。1年生では、基本的な授業の流れや基礎的内容の学習をメインとしているので、教員主導となっていることが要因として考えられる。2年生では、授業規律の乱れがやや見られるため、適宜指導を必要とし、生徒主体の活動に時間を割かれていないのが要因と考えられる。</p> <p>今後は、授業規律の徹底を継続しながらも生徒主体の学習活動を増やしていきたい。</p>
③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動

教科（英語科）
①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）
<p>①～⑤の評価項目についてはどの学年もB評価以上になっている。①に関しては年度初めや授業始めに科目や時間の目標を掲示、説明しているのが高評価に繋がっていると考える。⑤の評価の説明も同様に、考査やパフォーマンステストではどのような点が評価されるのか提示し説明しているのが良かったと思うので、今後も続けていく。</p> <p>生徒の姿勢に関してはどの学年も⑦、⑧が高い。その姿勢に応えられるように PDCA サイクルを通して、授業改善を続けていきたい。</p>
②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）
<p>A評価がなく、2学年の全体的な低さが目立つ。生徒の様子を見ながら自然クラスや展開クラスでの授業、ALTや支援員の活用などの手立てを実践していきたい。</p> <p>また、学んだことをまとめ、伝える活動の導入（プレゼン、リテリング、4コマ Picture Description など）も積極的に行い、後期のアンケートでは結果を向上させられるよう、実践を行っていく。</p>
③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動
<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT、ALTの積極的な活用 ・ 朝の時間を使って基礎的単語力育成（1学年） ・ 習熟度展開授業による学力下位層の底上げと、上位層の引き上げ

教科（家庭科）
①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）
・対話的活動に関する評価が高く、生徒も積極的に取り組めているため今後も継続していきたい。
②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）
・分かりやすく発表したり、まとめたりすることができているという項目と、この授業を通して、知識や技能の向上を実感しているという項目について評価が低くなっていたため、発表する機会を提供したり、実習の機会を増やすなどして充実を図りたい。
③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動
・生徒がより深く考え、楽しみながら学べる授業を行っていきたい。

教科（情報・商業科）
①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）
・全学年とも全体的に評価が高かった。 ・今後も、実技実習を多く取り入れ実施していきたい。
②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）
・低い項目は特にはないが、グループワークを増やしてほしいなど要望もあるため、可能な限り、活動を増やしていきたい。
③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動
・実技が多い科目だということで、積極的に取り組んでいる生徒が多い印象。 ・個々の活動の発表やグループ活動をさらに取り入れ言語活動の充実を行いたい。